

2004

地歴最新資料

第2号 (2004年11月30日現在)

INDEX

2004年6月～11月のおもなできごと・TOPIC! 2

日本史

- ①キトラ古墳・高松塚古墳壁画の修復・保存 …… 3
- ②弥生時代の開始年代をめぐる論争 …… 4
- ③遣唐使留学生の墓誌発見 …… 5

世界史

- ④特集 アメリカ大統領選挙 …… 6
 - 2004年アメリカ大統領選挙
 - 民主・共和両党の勢力範囲の変遷
 - 戦後のアメリカ大統領(1945～現在)

地理

- ⑤2004年の異常気象と地球温暖化 …… 9
- ⑥日本列島に上陸した台風とその影響 …… 10
- ⑦大規模余震の続いた新潟中越地震 …… 11

2004年6月～11月のおもなできごと

(注) 内の数字は月を示す。下線部①～⑦は解説の掲載を示す。敬称略。

政治	社会・文化	国際情勢
<p>2日 道路公団民営化関係4法成立。</p> <p>10日、三菱自動車のリコール隠し事件で、同社の元社長ら逮捕。</p> <p>14日、有事関連7法が成立。</p> <p>18日、政府は自衛隊の多国籍軍参加を決定。</p> <p>9日、北朝鮮による拉致被害者の曽我ひとみさんがインドネシアで家族と再会。</p> <p>11日、第20回参議院議員通常選挙。</p> <p>14日、日本とメキシコがEPA(FTA)締結。</p> <p>27日、小泉首相は内閣改造を行い、第2次小泉改造内閣が発足。</p> <p>15日、水俣病関西訴訟の上告審判決で国と県の責任が確定。</p> <p>15日、国連総会で安保理非常任理事国の改選選挙が行われ、日本が非常任理事国に選出される。</p> <p>1日、20年ぶりに新紙幣発行される。</p> <p>10日、中国の原子力潜水艦が日本の領海を侵犯。</p> <p>15日、ピョンヤンで北朝鮮による拉致問題をめぐる日朝実務者協議開催。</p>	<p>7日、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産リストに登録される。</p> <p>25日 <u>②九州大学の研究グループが弥生時代の開始年代について新たな成果を発表。</u></p> <p>2日 <u>①奈良県明日香村のキトラ古墳で、壁画のはぎとり作業開始。</u></p> <p>9日、福井県的美浜原子力発電所で水蒸気漏れ事故が発生。</p> <p>13日、ギリシアで第28回オリンピック・アテネ大会が開催。</p> <p>13日、沖縄、宜野湾市の大学構内に米軍のヘリコプターが墜落・炎上。</p> <p>1日、浅間山が噴火。</p> <p>1日 <u>①奈良県明日香村の高松塚古墳で本格的発掘調査開始。</u></p> <p>4日、日本とモンゴルの合同調査団が、モンゴル東部でチンギス=ハンの霊廟を発見したと発表。</p> <p>8日、ケニアの女性環境活動家マータイ氏がノーベル平和賞受賞。</p> <p>10日 <u>③中国で遣唐使の墓誌発見。</u></p> <p>23日 <u>⑦新潟県中越地方で震度6以上の地震が連続して発生。</u></p>	<p>1日、イラクで暫定政府発足。統治評議会議長ヤワルが大統領に就任。</p> <p>10日、アメリカのシーアイランドで主要国首脳会議開催。</p> <p>28日、連合国暫定当局(CPA)がイラク暫定政府に主権移譲。</p> <p>15日、イラク、バグダードで国民会議開催。</p> <p>1日、ロシアの北オセチア共和国で、武装集団が学校を占拠。治安部隊との銃撃戦で死傷者多数。</p> <p>19日、中国の江沢民・共産党中央軍事委員会主席が辞任、胡錦濤国家主席が全権掌握。</p> <p>9日、アフガニスタンで大統領選挙実施。</p> <p>19日、ミャンマー軍事政権、首相を解任。</p> <p>20日、インドネシアでユドヨノ大統領就任。</p> <p>31日、イラクで武装集団の人間となっていた日本人男性の遺体発見。</p> <p>3日 <u>④共和党のブッシュ米大統領が再選。</u></p> <p>5日、ロシアのプーチン大統領が京都議定書批准法案に署名。</p> <p>8日、米軍とイラク軍がファルージャに総攻撃を開始。</p> <p>11日、パレスチナ自治政府のアラファト議長が死去。</p>

TOPIC!

2005年はラジオ放送開始80年 日本史

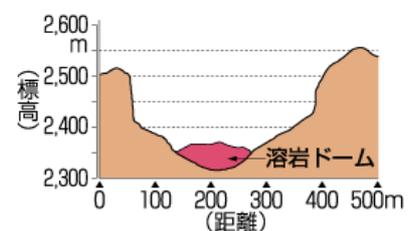
1925(大正14)年3月22日午前9時30分。東京の芝浦の東京放送局から、日本のラジオ第一声が流れた。2005年は、それから80年目にあたる。記念すべき80年目に向けて、NHKは、所蔵する膨大な録音資料を中心に、「音」の整理・確認作業を行っている。とくに、1936(昭和11)年のベルリン・オリンピックでの、女子200m平泳ぎの前畑秀子選手の優勝を伝えた「前畑ガンバレ」の実況録音や、谷崎潤一郎や武者小路実篤といった作家や政治家の肉声などが再編集される。また、NHK放送博物館(東京・港区)(<http://www.nhk.or.jp/museum/>)では、様々な企画展やイベントが催される。現在、2005年3月までの予定で、企画展「放送80年 あの日あのとき」が開催されている。

パレスチナ自治政府のアラファト議長死去 世界史

2004年11月11日、パレスチナ自治政府のアラファト議長がパリ郊外の軍病院で死去した。アラファト議長は1969年以降PLO(パレスチナ解放機構)の議長として活躍し、1996年には自治政府の初代議長にも就任した。議長の死を受け、PLO議長にはアッバス前自治政府首相が就任。自治政府の議長はファトゥーフ評議会議長が代行する。1993年のパレスチナ暫定自治協定調印、94年の暫定自治政府樹立など、アラファト議長が果たした功績は大きい一方で、財政と治安権限を握るワンマン体制を貫き、治安問題などではイスラエルとの対立を再燃させ、近年ではイスラエルから交渉相手として排除されていた。アラファト議長の死は中東和平にどのような影響を与えるのか、今後の動きが注目される。

浅間山噴火、噴火口に溶岩ドーム 地理

2004年9月1日、浅間山(長野県・群馬県、標高2,568m)の山頂火口から爆発的な噴火が発生した。浅間山は、1970年代はじめまで活発な噴火を繰り返してきたが、1983年以降、比較的静穏な状態が続いていた。今回のような規模の噴火が起こったのは、1983年4月以来21年ぶりとなる。国土地理院は、断続的に噴火が続く浅間山の火口底に溶岩が盛り上がった状態の溶岩ドームを確認した。体積は90万立方メートルという。浅間山の火口底にできた溶岩ドーム(国土地理院資料)



キトラ古墳・高松塚古墳壁画の修復・保存

キトラ古墳壁画の修復・保存

2004年8月2日、奈良県明日香村のキトラ古墳で、剥落が懸念される極彩色壁画を保存するためのはぎ取り作業が行われた。これは、壁画を下地のしっくいごと取り外し、石室の外で修復するもので、国内の古墳壁画では初めて採用された手法である。作業は、獣頭人身像のうち、西壁の戌(いぬ)の部分のはぎ取りから始められた。続いて、四神図東壁の青龍と、その下に描かれた獣頭人身像の卯(うさぎ)部分がはぎ取られた。はぎ取られた壁画は、古墳の保護施設にある冷蔵庫で一時保管され、修復を行う奈良文化財研究所(奈良市)に運ばれた。その後、四神図西壁の白虎のはぎ取りが行われた。白虎は、石壁から浮いている胴体部分だけをはがした。壁に固着している前脚部分は、乾燥して状態が悪く、今後、表面を樹脂で強化したうえで、はぎ取りを行い、胴体部分と接合させる。

一度開封した石室内の環境は、予想以上の早さで変化している。キトラ古墳の保存・活用を検討する文化庁の調査研究委員会は、今後、四神図の朱雀や玄武、天文図(星宿)など、すべての壁画をはぎ取り、石室の外で修復する方針

高松塚古墳壁画の修復・保存

2004年10月1日、キトラ古墳の北約1kmにある奈良県明日香村の高松塚古墳で、32年ぶりの本格的な発掘調査が始まった。極彩色壁画(国宝)を発見した1972年以来の調査となる。高松塚古墳では、2002年に女子群像が描かれた壁画周辺で黒いカビが発見され、2004年になり、男子群像や四神図の青龍の周囲でも、新たなカビが発見された。また、文化庁は、壁画の発見から30年目にあたる2002年から翌年にかけて壁画を撮影、2004年6月に写真集を刊行したが、この写真集によって、壁画の劣化が表面化することとなった。このような壁画の劣化の状況を受けて、今回の発掘調査が始められたわけである。今回の調査の具体的な目的は、壁画にカビが発生した原因の糾明にあり、さらに、墳丘の形状や規模の構造解明も期待されている。調査は、2006年3月末までに終了する予定。文化庁は、調査結果をもとに、はぎ取りも含め、壁画の恒久的な保存方法を検討する。

高松塚古墳は、キトラ古墳同様、文化庁が管理している。高松塚古墳の保存対策は、壁画発見の直後から国の主導で行われ、文化庁は、「石室内の現状を尊重」として、壁画の石室内保存を選択し、保存施設をつくって石室を密閉した。しかし、文化庁は、1985年頃に壁画の劣化に



キトラ古墳・高松塚古墳周辺地図

を確認した。これまで文化遺産の現状保存を重視していた文化庁が、剥離していない壁画まではぎ取る保存方法を採用した背景には、高松塚古墳壁画の劣化の問題もあるとみられる。委員会は、最終的には、壁画全体が危機的状況にあるという認識で一致した。

気付いていながら、劣化の事実を公表していなかった。こうした文化庁の閉鎖性に対して、研究者の間には、「実物を見たいという国民に我慢を強いて、何のために非公開にしてきたのか」という厳しい声もある。劣化原因の糾明が、保存対策を検討するうえでは、不可欠な重要課題となっている。

高松塚古墳壁画保存の経緯

1972	壁画を発見
1974	保存施設完成。石室を密閉。
1981	年1回の定期点検開始
2001	石室入り口と壁画でカビ発見
2002	壁画(女子群像周辺)でカビ発見 発見30周年記念で写真撮影開始
2004	文化庁に恒久保存対策検討委員会発足 30周年写真集『文化庁監修 国宝高松塚古墳壁画』刊行、劣化が判明 壁画(男子群像・四神周辺)でカビ発見 32年ぶりの本格的発掘調査開始

参照 『最新日本史図表』(p.47)、『新編日本史図表』
(前見返し,p.36)、『総合日本史図表』(p.1,36)

弥生時代の開始年代をめぐる論争

国立歴史民俗博物館の見解

2003年5月に、国立歴史民俗博物館(通称「歴博」、千葉・佐倉市)は、九州北部や韓国の弥生早期から前期の土器を炭素14年代測定法のAMS法によって計測し、その結果、弥生時代の始まりは、定説より約500年古い紀元前10世紀とする新説を発表した。さらに、歴博は、2004年に菜畑遺跡(佐賀・唐津市)から出土した山ノ寺式とよばれる弥生時代早期前半の土器に付着した炭化物を測定し、これまでの成果とも総合して、弥生時代の始まりは、紀元前10世紀後半である可能性が強いとの研究報告を発表した。

九州大学研究グループの見解

2004年7月九州大学の田中良之教授を中心とする研究グループは、九州北部で出土した人骨などを歴博と同様の方法で計測し、その結果、弥生時代の始まりは、定説通り紀元前500年頃である可能性が高いとの研究報告を発表した。同グループは、曲り田遺跡(福岡・二丈町)の鹿骨1点と、金隈遺跡(福岡市)などの人骨19体、計20点について、イギリスのオックスフォード大学にAMS法による年代測定を依頼、計7点について測定が成功した。弥生時代の開始を示すといわれる夜臼(ゆうす)式土器と同じ層から出土した鹿骨は、紀元前600年前後と測定された。また、人骨の測定では、弥生時代前期末が紀元前400年、中期前半～中頃までが紀元前400～200年、との年代を得た。

続く議論

歴博は九州大学研究グループの成果に対し、「歴博の研究成果を否定するものではなく、むしろ追認する内容であったことを確認した」とし、異なる見解の出た原因は、根拠とした試料の性格や数値の読み方などの違いで、誤差の範囲を広げれば矛盾はないとの見解を示している。さらに、「歴博が示した弥生時代の開始年代は、歴博の土器付着炭化物などに加えて、田中氏らの人骨という別の試料の測定結果からも妥当という結論が得られたと理解する」とし、弥生時代の実年代を知るうえで、AMS法がきわめて有効な方法であることを改めて知らしめる結果となったとしている。この歴博の見解に対して、九州大学研究グループは反論しており、弥生時代の始まりをめぐる議論は、今後も続いていくとみられる。一部の研究者からは、九州大学の試料を歴博で測定することや、歴博の試料を九州大学で測定するなどクロスチェックが必要との意見も出されている。

用語解説

土器型式

貯蔵用の土器である壺や、煮炊き用の土器である甕などのなかで、形や文様、器面調整などの違いをもとに設定された考古学上の分類単位。時期や地域ごとにまとまりをもつ。したがって同じ型式の土器は、同時期と認めることができる。

AMS法

加速器によってイオンを加速し、直接一個一個検出して正確にその同位体濃度を測定する方法。炭素14測定では、現在、ミリグラム以下の炭素試料を0.3-0.5%の精度で測定することができる。放射線で測定する場合と比べて、1000分の1の試料量での年代測定が可能である。(国立歴史民俗博物館資料より)

【参照】『最新日本史図表』(前見返し, p. 20), 『新編日本史図表』(折込), 『総合世界史図表』(p. 4)

中国	国立歴史民俗博物館の見解		従来の説(九州大学の見解)		西暦
殷	縄文時代	後期	縄文時代	後期	1000
1072		晩期		晩期	
西周	弥生時代	早期	晩期	500	
770		前期			
春秋		中期	弥生時代	早期	紀元前
403	前期				
戦国	後期		中期	紀元後	
221			後期		
202					
前漢					
8					
25					
後漢					

弥生時代の開始年代の概念

遣唐使留学生の墓誌発見

墓誌の発見

2004年10月、唐(618～907年)の都長安のあった中国の西安市で、8世紀前半に阿倍仲麻呂らとともに遣唐使の一員として唐に渡り、現地で亡くなった日本人留学生の生前の功績を記した墓誌が見つかった。墓誌は、一辺39cmの正方形の石で、表面に12行で171の文字が刻まれていた。中国で、古代日本人の墓誌が見つかったのは、これが初めてで、この墓誌は、古代の日中交流史・遣唐使の実態を解明する一級史料となる。

墓誌に刻まれた留学生は、「井真成」という人物で、墓誌には「生まれつき優秀で、国命で派遣され勉学に励み、宮廷で役職についたが、開元22(734)年に36歳で死去。皇帝(玄宗)が悼み、尚衣奉御を贈った」ことが記されていた。また、「国は日本」とあり、701年の大宝律令で定められた「日本」という国号を、中国側も認めていたことを示す最古の実物史料となった。

「井真成」という人物

日本や中国の文献には、「井真成」という人物に該当する記述はなく、日本名などはわからない。「井」は日本の姓を中国風に1字に変えたもので、「真成」は本名とみられる。死後に皇帝から贈られた「尚衣奉御」は、皇帝に衣服を捧げる役職の長で、皇帝が死を惜しんで官位を贈るということは非常に異例のことであり、このことから井真成の優秀さがうかがわれるという。井真成が唐へ渡った年は、墓誌には記されていないが、死亡時の年齢などから717年と推定される。この時の井真成の年齢は19歳。

717年の遣唐使には、阿倍仲麻呂や吉備真備、僧の玄昉らがいた。次の遣唐使船は、井真成が死亡する前年の733年に到着、翌年734年、帰国の途についた。井真成は、この船で帰国する予定だった可能性が高いと考えられる。

用語解説

留学生(るがくしょう)

遣隋使・遣唐使に随った留学生。官人やその子弟のなかから選ばれ、長期滞在により学問・技術・芸能などの研究に従事した。20～30年に及ぶものもいた。短期のものは請益生(しょうやくしょう)といい、区別された。また、僧の場合は、留学僧(または学問僧)とよばれた。隋代の高向玄理・南淵請安、唐代の阿倍仲麻呂・吉備真備などが著名。

参照 『最新日本史図表』(p.53)、『新編日本史図表』(p.39)、『総合日本史図表』(p.39)



遣唐使の航路

解説①～③に関連するホームページのURL

奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp/>

文化遺産の総合的研究機関。埋蔵文化財保存の高度な修復技術の開発を行い、キトラ古墳壁画の修復も担当。ホームページでは、最新の考古学関係の情報を紹介。

文化庁 <http://www.bunka.go.jp/pub/>

キトラ古墳・高松塚古墳を管理する。ホームページの「国指定文化財等検索システム」では、文化財法にもとづいて国が指定・登録・選定した文化財等の情報を検索できる。

国立歴史民俗博物館 <http://www.rekihaku.ac.jp/>

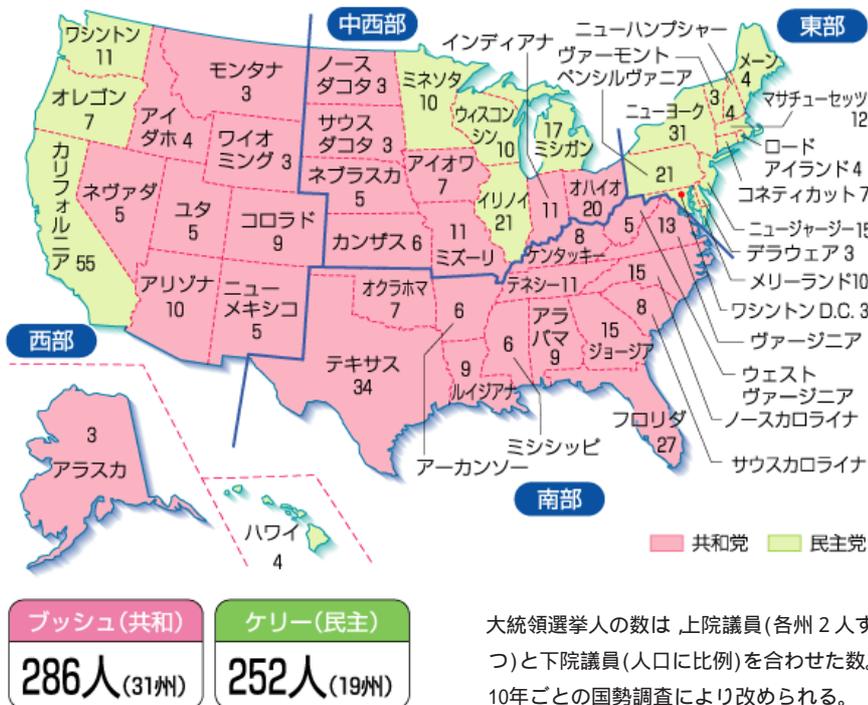
日本で最初の国立の歴史博物館。ホームページでは、弥生時代の開始年代の研究成果について、その詳細を紹介。

2004年アメリカ大統領選挙

アメリカの大統領選挙は、4年ごとに行われる。その選挙期間は約1年にも及び、全国党大会に出席する代議員を選出する「予備選挙(または党員集会)」,各州の代議員,州の党正・副委員長,連邦議員,知事,市長などが投票を行い,各党の大統領候補を選出する「全国党大会」,そして一般の有権者が投票する「一般投票」などから成る。このように、日本の選挙に比べて非常に複雑で長い期間を要するアメリカの選挙方法は、大統領に権力が集中して独裁に走らないための足かせにもなっている。しかし、2000年の選挙では、民主党のゴア候補が一般投票の総得票数では上回ったが、選挙人数で下回ったためにブッシュ候補に敗北するという、民意と選挙結果のねじれ現象もおこった。

予備選挙または党員集会	2月～6月
全国党大会	7月～8月
一般有権者による投票	11月の第1月曜日の次の火曜日
大統領選挙人による投票	12月の第2水曜日の次の月曜日
開票	翌年の1月6日 (上・下両院合同会議で開票)
新大統領就任式	翌年1月20日

2004年のアメリカ大統領選挙結果



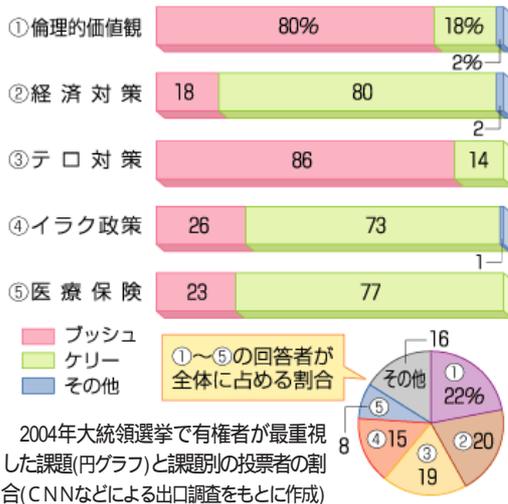
勝敗を決定する一般投票

一般投票では、投票用紙には通常、大統領候補の名が記載されているが、有権者によって選出されるのは大統領候補者ではなく、民主党・共和党などの政党が指名した選挙人である。一部の州を除いて、得票数の最も多い候補者とその州の選挙人票を独占することができる(勝者総取り方式)。現在、選挙人の数は538人であるため、過半数の270人以上を獲得した候補者が実質的に次期大統領となる。

2004年11月2日に行われた一般投票では、共和党の現職ブッシュ大統領が、286人の選挙人を獲得し、民主党のケリー候補を破って事実上再選を果たした。

二つに割れたアメリカ社会

2000年の選挙に続き、今回の選挙も予想以上の大接戦となった。なかでも大きな争点となったのはイラク問題である。現在、イラクでのアメリカ兵の死者は1000人を超え、攻撃の理由とされた大量破壊兵器の証拠も見つかっていない。民主党のケリー候補は、ブッシュ大統領を国際社会の十分な理解を得ないまま戦争に突入り、アメリカの国際的孤立をもたらしたとして批判した。対するブッシュ大統領はテロの脅威を強調し、同性結婚を禁止する合衆国憲法修正案を提案するなど、保守層の票の取り込みを図った。CNNなどが行った出口調査においても、重視する課題によって有権者の支持がはっきりと分かっている。事実上再選を決めたブッシュ大統領にとって、二つに割れたアメリカ社会をどうまとめていくのが今後の大きな課題と言える。



民主・共和両党の勢力範囲の変遷

2000年の選挙に続いて今回の選挙でも民主党は南部で大敗した。南部はかつて民主党の支持基盤であった。では、南北戦争時の南部 = 民主党支持、北部 = 共和党支持という構図から、アメリカの政治地図はどのような変遷を遂げてきたのであろうか。

南北戦争～第一次世界大戦後(1860～1930年代)

1828年に結成された民主党は、南部を基盤として大地主や農民の支持を集めていた。これに対抗して1854年に東・北部の新興産業資本家と西部の自営農民層を支持基盤として発足した共和党は、奴隷制拡大反対などを訴え、1860年の選挙でリンカン(任1861～65)を当選させて二大政党の一つとしての地位を確立した。

共和党は、南北戦争後の急速な東部の工業発展や拡大する西部の農業を背景に支持をのばし、外交面でもアメリカ=スペイン(米西)戦争、門戸開放政策など積極的な政策を展開した。1929年の世界恐慌まではクリーヴランド(任1885～89, 93～97)とウィルソン(任1913～21)の2人を除いて政権をほぼ独占した。この間の代表的な共和党大統領としてはマッキンリー(任1897～1901)やセオドア=ローズヴェルト(任1901～09)が挙げられる。

世界恐慌以降(1930年代～現在)

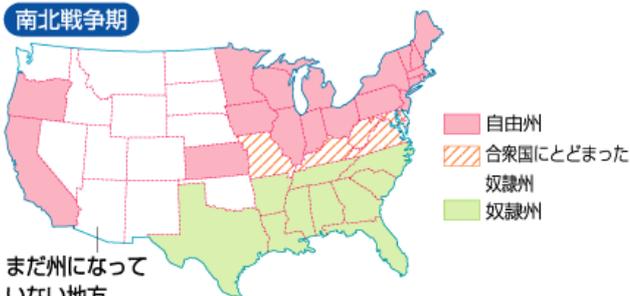
世界恐慌による混乱期に、共和党のフーヴァー(任1929～33)に代わって就任したフランクリン=ローズヴェルト(任1933～45)以降、民主党は、政府の経済への積極的介入政策や社会福祉政策を推し進め、黒人をはじめとした低所得者層の支持者を増やして多数党となった。しかし1960年代に、黒人の権利拡大などを掲げた公民権運動を推進する立場をとったため、南部白人層の離脱を招いた。共和党はこれに乗じて南部白人層への浸透を進めていった。さらに1980年代には伝統的な自由主義への復帰を唱える新保守主義が広まり、アメリカ社会の右傾化とともに共和党が次第に勢力を拡大し、レーガン(任1981～89)以降はクリントン(任1993～2001)を除いて政権を独占している。今回の選挙でも、伝統的な価値観や「テロに屈しない強いアメリカ」を前面に押し出したブッシュ大統領が、白人保守層、中・高所得者層を中心に支持を集めた形となった。

用語解説

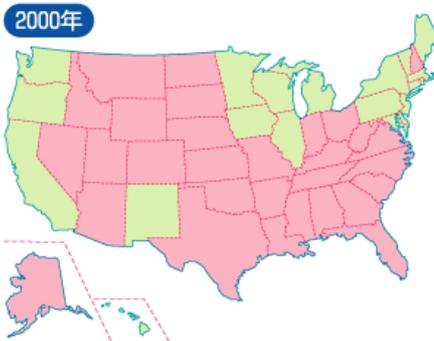
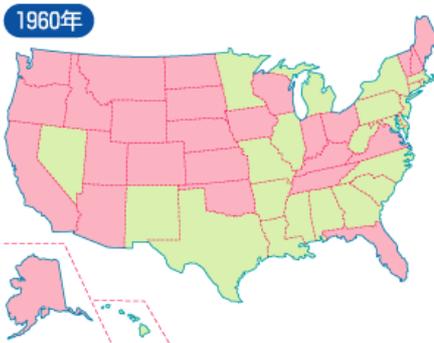
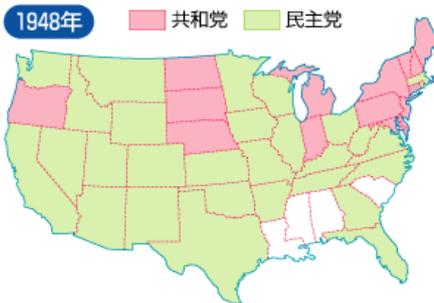
新保守主義(ネオコン)

1970年代以降に台頭した、家族・性道徳など伝統的な価値観を重視し、経済だけ「小さな政府」を重視する立場をさす。外交的には強硬で、自国を脅かす存在には軍事的な介入も辞さないとし、積極的にアメリカの価値観や民主主義を非西欧社会に広めようとする。ブッシュ政権下で、有力な立場となっている。

アメリカの政治地図の変遷(『読売新聞』2004年11月7日などを参照)



まだ州になっていない地方



トルーマン
303人

デューイ
189人

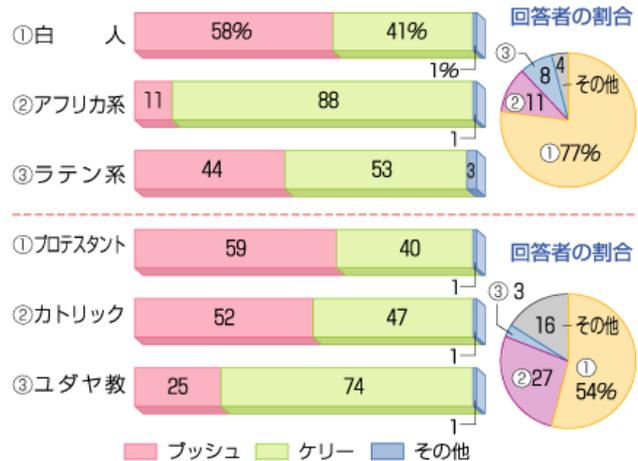
ケネディ
303人

ニクソン
219人

ゴア
267人

ブッシュ
271人

2004年大統領選挙での投票者の属性(棒グラフ)と全回答者に占める割合(CNNなどによる出口調査をもとに作成)



戦後のアメリカ大統領(1945～現在)

33代 トルーマン 民主党(任1945～53)

32代 F.ローズヴェルトの急死により副大統領から昇格。共産主義に対する「封じ込め政策」の一環として、トルーマン=ドクトリンを発表し、冷戦体制を構築。

* 1951年、憲法修正第22条により大統領3選が禁止

34代 アイゼンハワー 共和党(任1953～61)

第二次世界大戦の英雄。「巻き返し政策」、大量報復戦略の提唱、反共軍事同盟網の構築など、反共強硬策をとる。1950年代半ばに米ソ関係は「雪解け」の時代に。

35代 ケネディ 民主党(任1961～63)

カトリック教徒最初の大統領。ベルリン問題、キューバ危機(1962)でソ連のフルシチョフと対決。1963年、遊説先のテキサス州ダラスで暗殺される。

36代 ジョンソン 民主党(任1963～69)

ケネディ暗殺により副大統領から昇格。「偉大な社会」の建設を目指す。ベトナム戦争への本格的介入により、戦争は泥沼化し、反戦運動の激化を招く。

37代 ニクソン 共和党(任1969～74)

1971年、訪中とドル防衛策を発表(ニクソン=ショック)。72年、中国・ソ連を訪問し、デタントが到来。73年、ベトナム和平協定を結び撤兵。74年、ウォーターゲート事件の隠蔽工作を追及されて辞任。

38代 フォード 共和党(任1974～77)

ニクソンの辞任により副大統領から昇格。

39代 カーター 民主党(任1977～81)

人権外交を展開。エジプト・イスラエルの和平を仲介し、中国との国交正常化を果たす。1979年、テヘランの米大使館員人質事件への対応を誤り、再選に失敗。

40代 レーガン 共和党(任1981～89)

俳優出身。「強いアメリカ」復活を主張。対外的には軍備の増強をはかる一方で、87年、ソ連と中距離核戦力(INF)全廃条約に調印。国内的には「小さな政府」、大幅減税、規制緩和などを内容とする経済政策を行う。

41代 G.ブッシュ 共和党(任1989～93)

1989年、ゴルバチョフとマルタ島で会談し、冷戦体制に終止符を打つ。1991年湾岸戦争でイラクを屈服させる。

42代 クリントン 民主党(任1993～2001)

経済的繁栄と財政赤字の削減に貢献。中東和平、北アイルランド和平などの調停を行う。1999年、不倫もみ消し疑惑で弾劾裁判を受けるが罷免を回避。

43代 G.W.ブッシュ 共和党(任2001～)

41代大統領の息子(2代・6代のアダムズ親子以来2度目)。

G.W.ブッシュ政権の歩み

2001年1月	43代大統領に就任
3月	京都議定書からの離脱を表明
9月	同時多発テロ事件(9.11テロ)
10月	米英軍、アフガニスタン空爆開始
12月	タリバン政権崩壊
2002年1月	イラン・イラク・北朝鮮を「悪の枢軸」と非難
5月	国際刑事裁判所(ICC)設立条約からの離脱を表明
	米ロ、戦略核兵器削減条約に調印
6月	A B M(弾道弾迎撃ミサイル)制限条約から正式脱退
9月	アメリカの国家安全保障戦略(自衛のためには先制攻撃もためらわない)を発表
11月	国連安保理、イラクに対する大量破壊兵器の査察の受け入れと廃棄を求める決議を採択
2003年3月	米英軍、イラク攻撃を開始
4月	中東和平ロードマップ発表
5月	イラク戦争終結宣言
12月	イラク・フセイン元大統領を拘束
2004年6月	イラク暫定政府発足 主権移譲

冷戦体制の消滅でアメリカは「唯一の超大国」となった。2001年に成立したブッシュ政権は、同時多発テロ事件(9.11テロ)以降も、多国間協力の枠組みに背を向け、単独主義を一層強めている。京都議定書や国際刑事裁判所(ICC)設立条約からの離脱、対人地雷全面禁止条約や生物兵器禁止条約への署名拒否、包括的核実験禁止条約(CTBT)の未批准などがあげられる。2期目を迎えるブッシュ政権と国際社会との関係が改めて問われている。

解説④に関連するホームページのURL

外務省 - 各国・地域情勢 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>

アメリカの基礎データや最近の情勢、日本との関係などについての情報を掲載。

在日米国大使館 <http://tokyo.usembassy.gov/tj-main.html>

アメリカの政策関連文書を見ることができる。2004年の大統領選挙の特集ページも設けてある。

2004年の異常気象と地球温暖化

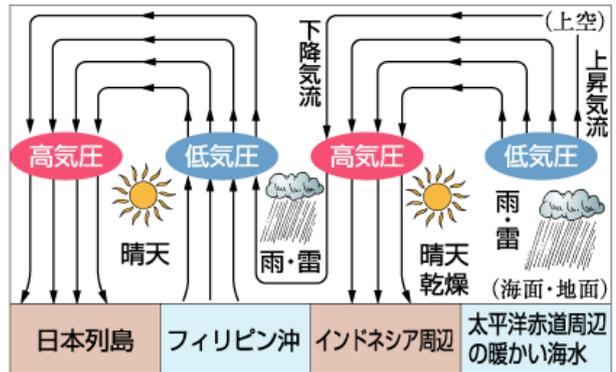
世界の気象

2004年、世界の各地で異常気象がみられ、多くの被害が知らされた(下図参照)。ルーマニアやマケドニアでは熱波に見舞われ(7月)、アメリカ南東部にはハリケーンが襲来し(8月)、ペルーでは寒波が襲った(6~7月)。

日本の気象

日本では、記録的な猛暑や10個の台風上陸、新潟・福井などの集中豪雨など、異常気象ともいえる現象が続いた。東京都心や大阪・京都などでは、相次いで気温30以上の真夏日の過去最多日数を更新し、熊本では、沖縄や奄美諸島以外で初の真夏日が100日を超えた。台風は、1951年の観測開始以来の年間最多上陸記録を更新する10個が日本列島に上陸し、大きな被害を与えた。また、例年になく大型で強い勢力を保ったまま日本付近に到達したため、前線を刺激して大規模な集中豪雨をもたらした。

こうした猛暑・豪雨は、太平洋中央部の海水温の上昇が一因と考えられる(右上図参照)。この太平洋中央部の暖かい海水が、強い西風に吹かれペルー沖に届くとエルニーニョ現象になるが、すでにエルニーニョ現象の初期状態との見方もある。暖まった海水は激しい上昇気流を起こす。この上昇気流が巨大な対流を呼び、世界各地に異常気象をもたらしたと考えられている。赤道付近で起きた上昇気流がインドネシア周辺で下降し、その一部がフィリピン東沖で再び上昇する。この再度の上昇気流が通常の夏に起きる

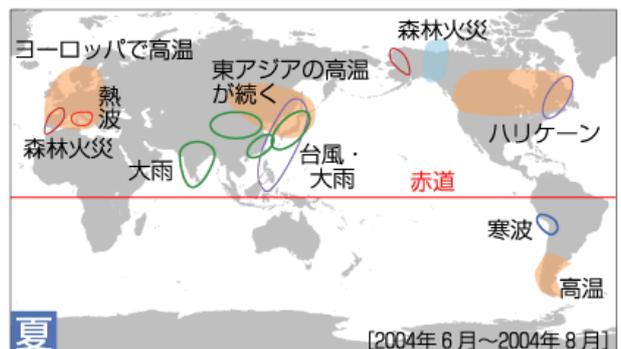
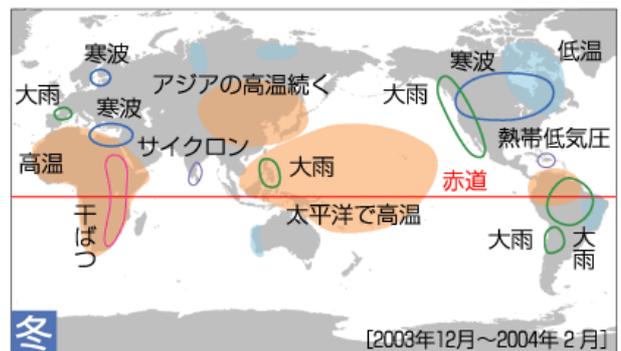


日本列島の強い高気圧(『日本経済新聞』2004年9月26日参照)

フィリピン東沖の上昇気流をいっそう強め、結果として日本付近の下降気流に影響を与え、太平洋高気圧の勢力とともににはたらき、日本に猛暑をもたらしたと考えられる。太平洋高気圧の勢力が強くと張り出し、オホーツク海高気圧が発達しなかった分、猛暑が続いたとの見方もある。

地球温暖化との関係

太平洋中央部の海水温の上昇は、熱帯の海が温暖化傾向にあるため起きたという専門家の見方は多い。海の温暖化の一因は、地球温暖化と切り離して考えることはできない。2005年2月には、温室効果ガス削減に向け、「京都議定書」が発効する見通しである。アメリカの不参加や、大量排出国の中国・インドに削減義務がないなど、問題はあつものの、地球温暖化防止に向け、地球規模での対策が進められようとしている。



観測された異常気象(気象庁資料)

日本列島に上陸した台風とその影響

日本列島に爪あとを残した台風

2004年、日本に上陸した台風の数、観測史上初めてとなる10個を数えた。政府は被害の大きかった台風10・11号、16号、18号、21号、23号について激甚災害に指定した。台風18号では、世界遺産の厳島神社(広島・宮島町)の左楽房が倒壊し、広島市平和記念公園の被爆アオギリも根こそぎ倒れた。台風23号は、10月19日に沖縄上陸後、強い勢力のまま20日に高知県に上陸、その後、日本列島を縦断した。消防庁のまとめによると、この台風による死者・行方不明者は95人にのぼる(11月18日現在)。兵庫県の豊岡市では、円山川が決壊し、市街地の大部分が水没し、京都府舞鶴市では、冠水した道路に取り残された観光バスの上で乗客37人が一晩を過ごすなど、各地に甚大な被害を与えた。

動植物への影響

また、長雨や台風の強い風などにより、山中のブナやナラなどの木の实や果物が実らず、クマがえさを求めて人里に出没し、人を襲うなど、人間だけでなく動植物にも大きな影響がみられた。コメや青果の収穫前に台風襲われた地域では、モミの発芽不良、田畑への泥水の浸水、風による落果など、青果物が出荷できない状況となった。すでに収穫を終えた地域でも、田畑に泥水が流れ込むことで、次期の作付けが困難となっている。

好天続きで例年より豊作とされていたコメの作況指数は100を下回り、98とされた(10月15日現在)。青果の市場価格は通常の3~4倍に急騰し、飲食店などをはじめ、日常の消費生活にも大きな影響を及ぼしている。

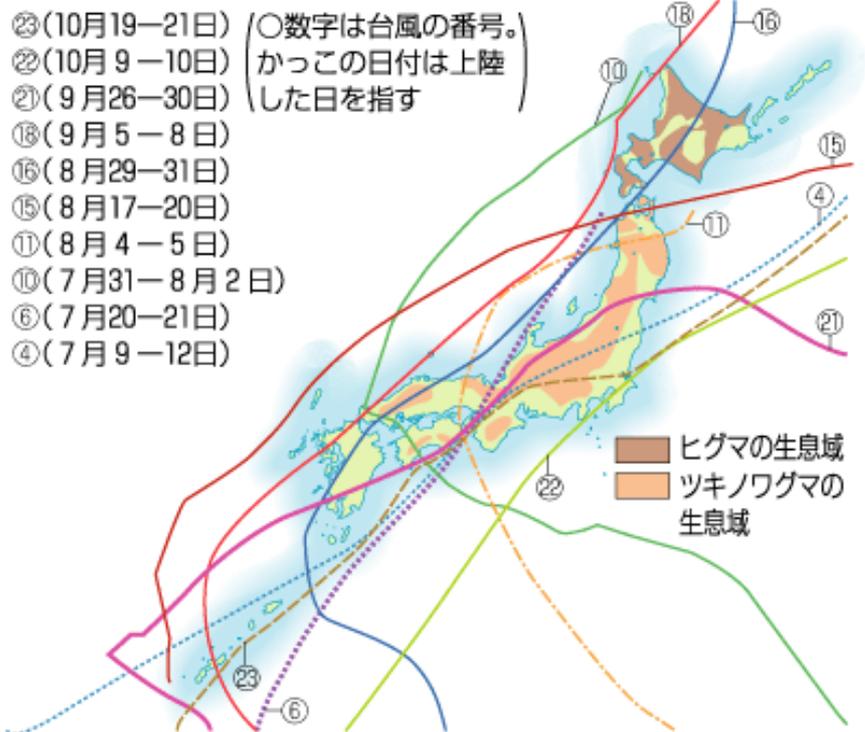
農林水産省は野菜の供給不足による消費者価格の高騰を受け

て、キャベツ・白菜など、早取り出荷の前倒しを実施する、ほうれんそうなどの生育期間の短い野菜をビニルハウス栽培や奨励金などによって生産を促進する、不揃い野菜を出荷した生産者に奨励金を出すなどの対策を進めている。

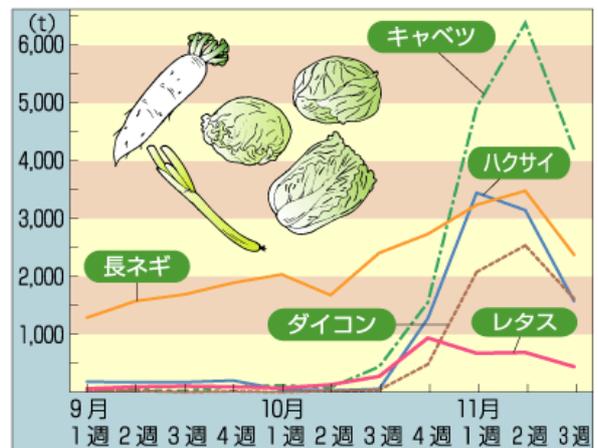
また、台風の影響が顕著となった10月中旬以降、海外からの青果物の輸入が急増している。主に、レタス(アメリカ)、ネギ・大根・キャベツ・白菜・ニンジン(中国)などが大量に輸入されている。

地球温暖化の影響

10個もの台風が上陸したのは、例年より強く北に張り出した太平洋高気圧の西縁が日本列島にあたり、それに沿って台風が進んだことが一因と考えられている。太平洋高気圧の強さには、海水温の上昇が遠因としてあげられる。また、高い海水温は蒸発と上昇気流を呼ぶ。フィリピン沖で発生し、豊富に水蒸気を取りこんだ台風は、勢力を強く保ったまま進んだため、大きな爪あとを日本列島に残した。台風の襲来には、複数の要素が相互に関連しているが、遠因としての地球温暖化防止に向けて、その対策を世界的に取り組むべきであろう。



日本列島に上陸した台風とクマの生息域(気象庁資料ほか)



野菜の輸入量(農畜産業振興機構資料)

大規模余震の続いた新潟中越地震

新潟中越地震の発生

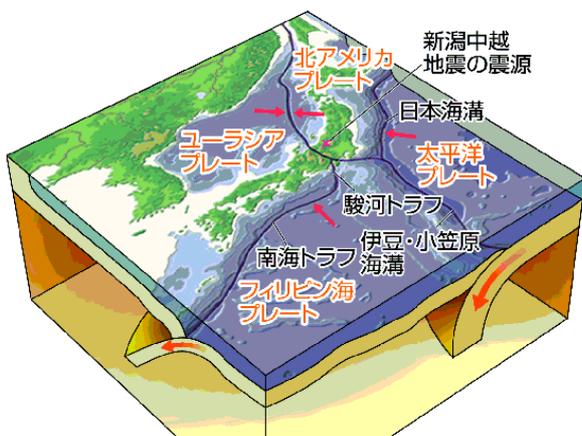
2004年10月23日17時56分頃、新潟県中越地方を中心に、震源の深さ13km、マグニチュード(M)6.8の大地震が発生した。この地震で新潟県川口町は震度7、小千谷市・山古志村・小国町で震度6強、長岡市・十日市町などで震度6弱を記録した。その後も震度6強を観測する余震が多発し、最大で10万を超す人が避難した。道路や通信、電気・ガス・水道などのライフラインは切断され、多くの家屋が倒壊した。地震により周囲から孤立した集落もあった。地震で傷んだ家屋は雪の重みに耐えられるのか、生活のための補償は得られるのか、といった不安も住民の間には強く、一刻も早い復興が望まれる。

多発する余震

新潟中越地震における有感の余震は、2004年11月25日現在、計809回を数えた。規模の大きな余震が多く、M4以上は108回を数え、1943年の鳥取地震(M7.2)、1945年の三河地震(M6.8)を上回り、火山性地震を除くと、観測史上最多の余震を記録した。

新潟中越地震の構造

この地域は北米プレートと大陸から続くユーラシアプ



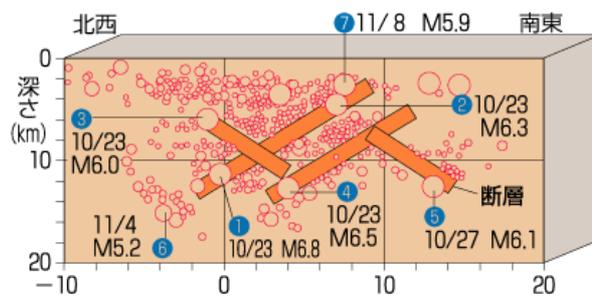
日本周辺のプレートの境界

レートがぶつかり合う境界にあたるとみられる。太平洋プレートのように重い海洋型プレートは、大陸型プレートの下にもぐりこむが、この地域にみられるのは陸のプレートの衝突であり、沈み込まず隆起する形となる。新潟県中越地方には、プレート同士の衝突というダイナミックな構造運動により、複雑な構造の活断層を含む褶曲が形成された。断層にひずみが蓄積されやすい構造で、本震によって解放されたエネルギーが周囲に拡散して、余震を連鎖的に起こすとの見方が一般的である。

地震対策のために

現在では、日本列島の地震空白域が注目されている。大きな地震が一定期間発生していない地域の中で、今後地震が起こる可能性が高い地域として、盛んに研究が進められている。ただし、東海地震のような海溝型地震の震源域を想定するのは比較的容易であるが、新潟中越地震のような地下の断層がずれる内陸直下型地震の震源域を想定するのは難しい。いまだ発見されていない地中の活断層も多く、より綿密な調査が必要である。

日本列島は世界の地震の1割が集中する地震列島でもある。たとえ空白域から震源域の想定ができて、いつ地震が発生するかという予知は難しい。日常より情報の収集・確認に努め、防災に取り組むことが対策の基本となろう。



中越地方の活断層の断面図(地震予知連絡会資料)

解説⑤～⑦に関連するホームページのURL

気象庁 http://www.jma.go.jp/JMA_HP/jma/index.html

気象庁の業務やシステムの紹介のほか、日本と世界の気象情報、地震や台風、火山、地球環境の情報も随時掲載。過去の気象データ・解説も豊富に掲載している。